LLP 漢方研究有識者会
「講演会」や「天仙液」に関する情報提供や資料に関する問い合わせも行っている。
フリーダイヤル：0120-961-962
TEL：03-6661-6721　FAX：03-6661-6722

多くの聴講者が、有意義な講演に耳を傾けていた

がんになってもあわてない・あせらない

三好 立　銀座並木通りクリニック院長

2人目の登壇者は、がん専門相談所「キャンサーフリートピア」の代表医師で、銀座並木通りクリニックの院長も務める三好立氏。三好医師の講演のテーマは「がんになってもあわてない・あせらない」というもの。「がん難民にならないために」「がん治療には、いろいろな選択肢がある」ということを含めた話が繰り広げられた。講演の概要は次のようなものであった。

〈がんと診断されたときの心構えとしては、「あわてない・あせらない」ということが大切。一見すると、画像上のがんは塊であり、実際に摘出するがんも塊に見える。しかし、がんは、1個1個のきわめて小さながん細胞の集まりである。だから、がんは細胞の病気であることを考えたうえで、治療戦略を立てるべきである。

がんは、がん細胞がどんどん分裂・増殖することで大きくなるが、臨床で見つかるがんは、だいたい1㎝ほどになってからである。1㎝ほどの大きさのがんのなかには、10億個のがん細胞があると言われている。つまり、がん細胞が1000個あっても、1万個あっても見つけることは困難である。

がん細胞が生まれて人の命を奪うまで、だいたい10年かかると言われている。つまり、がんは、昨日や今日にできたものではない、ということだ。したがって、一般的にはがんの告知を受けてがん患者の仲間入りをするが、腫瘍学的にはそのずっと前から〝がん患者〟ということになる。

考え方を変えると、数年前から体内にがんはあったわけなので、がんの告知を受けたからといってもあわてず、あせらず、治療法の中身をよく吟味すべきである。もちろん、いつまでもがんを放っておけということではなく、治療方針に納得したら、迅速に行動すべきである。〉

がんの休眠療法などについて講演する三好医師

「天仙液」の世界的な研究成果と高い評価の報告

孫 苓献　北京振国腫瘍病院副院長

休憩時間を挟み、最後の講演が行われた。演者は、北京振国中西医結合腫瘍病院副院長であり、アメリカ自然医学会自然医学医師など、数多くの肩書を持つ孫苓献氏であった。孫医師は『天仙液』の世界的な研究成果と高い評価の報告」というタイトルを付与した話を披露した。

〈抗がん漢方薬である天仙液の世界的な研究成果は、いくつかある。まず、世界で初めてアメリカ国家衛生院臨床試験センターから認可され、国立医学機関である台湾大学付属医学院において、正式に末期乳がんに関するヒト臨床試験が実施された抗がん漢方薬だということ。2つ目は、その末期乳がんの患者さんに対し、有効率が66・7％であったこと。3つ目は、近年、20項目以上の化学的な研究試験を実証したことで、アメリカ国立癌研究所から抗がん漢方薬としてリストアップされたこと。そして、最後は、世界でさまざまな抗がん剤が存在するなかで、最も経済的な抗がん作用を有する、ということである。4番目については、台湾国家衛生研究院癌研究センターから、天仙液が10種のがんに対し、顕著な抗がん効果があると認められた。

以上の結果から、天仙液は世界的に最も安全性があり、有効性が高く、治療費が経済的で、ヒト臨床試験でも実証された抗がん漢方薬であるということが言える。〉

講演終了後は、天仙液についての質疑応答の時間が設けられ、「天仙液」の研究者としても知られている孫医師が、来場者からの質疑に対し応答した。「再発予防にも天仙液は効果があるのか」、「量は、どのくらい飲んだらいいのか」、「（天仙液が）効いているかどうかの見極めはどのくらい飲んでから決めたらいいのか」など、会場からは多くの質問が寄せられた。

孫医師は、「天仙液」の研究成果などを中心に講演した